

## 荒川（放水路）のない荒川（隅田川）から河川を考える

江戸時代、利根川は荒川（現在の隅田川）を通じて東京湾にながれこんでいました。幕府の東遷工事後も、下流はしばしば洪水に襲われたため、明治時代に首都東京を水害から守るため、政府の総力をもってした土木工事が荒川（放水路）です。以降、隅田川（江戸時代には大川とも呼ばれました）は本名を失うこととなります。

このエクスカージョンは隅田川と日光街道とが交差する南千住を起点にして、その氾濫原（図1）にあった小塚原処刑場跡から、木造密集地区の土地区画整理事業と防災団地、日本ではじめて軍服、ボール紙を生産した工場、下水道を浄水して工水を供給した処理場（都は工業用水事業を廃止しました）の跡地、三河島水再生センター、そして、荒川（放水路）と隅田川の分岐点となった、岩淵水門（図2）を訪ねます。



図1 隅田川の日本堤・隅田堤の位置と効用



図2 岩淵水門（通称「赤水門」）

が建設され、<https://www.ktr.mlit.go.jp/arage/arage00026.html> 高度経済成長をささえることになりました。しかし、地下水の過剰な汲み上げによって、江東デルタは沈み、ゼロメートル地帯となっています。かつての工場は移転し、跡地には高層ビルやマンションが林立し、自然災害にもっとも脆弱な地域とされます。政治によって荒川が隅田川と名をかえさせられたように、荒川下流は近代の都市と河川の変遷をしめているといえます。途中にある旧三河島污水処分場唧筒場は明治時代の東京市下水処理の発祥の地です。その一部が重要文化財として見学ができますが、施設の受入れの都合上、翌日にオプションとしました。

日時：2023年8月25日（金）、8月26日（土）※26日は オプション企画

集合場所：8月25日 JR南千住駅改札口 午前10時集合出発 JR南千住駅の改札口は一か所  
8月26日 旧三河島污水処分場唧筒場施設西門前 午前10時15分集合

参加費：無料（交通費など実費） 参加申込：~~7月24日~~ 8月18日までに延期しました。人数の制限がありますので早めに申込を、飯岡のアドレス：iioka408 あっと gmail.com（「あっと」を@に置き換えて）に参加者名、当日の連絡先（携帯電話）、参加希望日（オプションのみも可）を必ず記入してください。

- ◆ 8月25日 JR南千住駅 10:00(出発) → 回向院(小塚原刑場跡、観臓記念碑) → 東白鬚地区再開発地区・汐入公園展望台(防災団地) → 砂尾堤跡 → 千住大橋 → 荒川ふるさと文化館・橋本左内墓(自由見学) → 荒川土手(官営千住製絨所・千住製紙工場跡など) → 南千住浄水場跡 → 荒川自然公園(休憩) → 旧三河島污水処分場唧筒場 → 町屋駅周辺(昼食) 13:00~14:00 → 町屋駅(荒川トラム)・王子駅経由・志茂駅(地下鉄南北線) 14:30 → 荒川知水館(岩淵水門、青山士の碑文など自由見学) 15:00~16:30 → JR赤羽駅 17:00頃(解散) 解散後、有志による懇親会
- ◆ 8月26日(土) オプション企画 旧三河島污水処分場唧筒場施設 10:30 ~12:00 東京都職員の説明 現地集合